

演習ガイダンス(2012年度)

2012年4月6日(金)15:50~16:40

赤門総合研究棟7番演習室

小野塚 知 二

はじめに

- (1)世界の大学卒業生の常識(と日本の大学卒業生の非常識):歴史の有用性をめぐる感覚
- (2)自分で課題を決めて、調べ、考え、結論を出すこと
- (3)口頭発表および論文執筆の説得的な技法

今年度のテーマ「ユーロ危機の政策思想史 —現代の終焉—」について

演習参加者募集要項に記載されているとおり。

これは、東大EMPでわたしが第1期から担当している、経済史に関する一連の講義全体を括るテーマの一つであり、ある程度熟成してきたので、その成果の一部を学部演習にも還元することにしました。また、EMPのもう一つのテーマである「失敗の合理的背景」については昨年度の演習で議論しましたが、今年はそれに連続するテーマでもあります。

経済史・政策思想史の観点からわたしが金融通貨危機をどのように考えているのかについては、以下のインタビューを参考にしてください。いずれもわたしのHP^{*1}にリンクしてあります。

[「私達は市場をまだ飼い馴らせていない —経済史から、いまの市場を考えてみる—」](#)(日経BPオンライン版、2010年1月22日)¹²

[「経済史から考える市場:我々はまだ市場を飼い馴らせていない」](#)(日経ビジネス別冊『決定版 新しい経済の教科書』、日経BP社、2010年3月24日)¹³

また、今年度のテーマの副題「現代の終焉」については、以下のものを参照して下さい。

小野塚知二「日本の社会政策の目的合理性と人間観 —政策思想史の視点から—」『社会政策』第3巻第1号、2011年6月、pp.28-40.

小野塚知二編著『自由と公共性 —介入的自由主義とその思想的起点—』日本経済評論社、2009年6月、viii+305p.

ゼミと卒論について

せっかく進学しても、講義に出ているだけでは経済学部で自分が何を学んだのかは、卒業して半年もしないうちにほとんど忘れてしまうでしょう。ゼミで討論し、ご自分でテーマを決めて研究し、卒業論文に書いたことは、自分の財産としてあとまで残ります。卒業

*1 <http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/index.html>

*2 <http://business.nikkeibp.co.jp/article/tech/20100120/212329/>

*3 これは出版物ですが、PDFを以下に掲載してあります。<http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/nikkeibp.pdf>

後に勉強の効果が残るかどうかという点だけでなく、就職活動の際にも自分でテーマを決めて研究しているということが非常に高く評価された例を最近いくつも耳にしています。経済学部や法学部のように多人数講義が主体の教育を行っているところでは、ゼミで個人研究を進め、卒論を書かなかつたら、大学で学んだ証しを残すのは非常に難しいのです。

ぜひ、おもしろい卒論を執筆することを今後2年間の目標の一つに設定してください。そのために必要な助言と指導は必ずいたします。自力で何かを調べ、その成果を論理的に表現して、口頭で、また文章で発表するという技法は学生時代に身に付けておけば、どの進路を選んでも非常に役に立ちます。

ゼミについてのわたしの考えは、かつて、以下のインタビューで詳細に述べましたので、参考にしてください。

[「新しい大学選び」第3回\(洋々・大学別キャンパスライフ、2009年3月\)](#)¹⁴

個人研究のテーマ選定について

個人研究のテーマは、今年度の演習のテーマに縛られる必要はありません。ご自分の関心のある、研究してみたいテーマを選んでください。ただ、テーマによって、研究のしやすさ／難しさが違います。卒論提出までの20ヶ月ほどで、成果が出せないと困りますから、どんなテーマでも研究できるというわけではありません。テーマを選ぶ際は、まず、関心のあることがらをいくつか、テーマの候補として挙げて、わたしにご相談ください。6月から7月のうちに、とりあえずのテーマを決めてください。その最初の研究成果を秋の合宿で発表してもらいます。

これまでの卒論のテーマ等については4年生の諸君にうかがってください。

*4 <http://you2.jp/ao/course-03.htm>